



仙光院（長柄）

お決まりのポーズ。安定感があります。



長徳寺跡（長柄）

諸行無常の鐘の音...林間で静かに長柄の推移を見えています。本尊は仙光院で鎮座。



2017年12月25日発行 第31号  
認定NPO法人葉山まちづくり協会  
〒240-0112 三浦郡葉山町堀内1874  
町立図書館2階  
TEL&FAX 046-876-0421  
e-mail: o ce@hayama-npo.or.jp

葉山まちづくり協会 検索



実教寺（一色）

重い体ですが、夏になったら空色の衣をまわって天空を飛んでみたい。



長運寺（長柄）

6人がフルメンバーなのでひとり进行を募集中。左2体右2体とも下部が折れています。廃仏毀釈か地震のためかはわかりません。

### お地蔵様のお正月装いコレクション

道行く人々を静かに見守るお地蔵様のお召し物もさまざま。多くは檀家さんの手作りによるもの。さながらファッションを競い合っているようです。



あずま会館前（堀内）

海に近いので寒風対策で完全防寒。お寺は廃寺になりましたが、近所で仏様をお守りしています。



光徳寺（堀内）

色違いの2種類の衣をまわっています。どちらもよくお似合いです。



新善光寺（上山口）

どうですか、6人パッチリきまっています。ポーチはファッションです。



玉蔵院（一色）

冬空で頭が寒そうです。長い裾がそれを補っています。



万福寺（下山口）

定番ですが六地蔵はこれできまり！花の数に信仰のあつさを感じられます。



子供を守る仏様として昔から信仰されてきたお地蔵様。よだれかけや頭巾を身につけるのは子供たちが丈夫で元気に育つようにという願いがこめられている。古来から魔除けの色とされてきた赤色が使われることが多いが子供らしくカラフルな柄物を着ていることもある。

常に人々を苦悩や災難から守り、すぐに助けにいけるよう野外にお祀りされるお地蔵様。平穏なときこそ、見かけたときには手を合わせて感謝する気持ちを持ちたい。

## 「第18回葉山まちづくり展」に参加しませんか

第18回葉山まちづくり展の実行委員会が動き出しました。葉山の町での心豊かな暮らしを手助けする行政との中間支援組織である葉山まちづくり協会が主催します。この機会に、町民の皆様の日々の生活が、より楽しく爽やかなものになるようにと、情報提供を兼ねて、協会の登録団体以外の多くの方々の参加も募っています。葉山の中で生き生きと活動されている皆様、会員を増やしたいと考えている皆様、日頃の活動の成果を披露したいと思われる皆様、ご一緒に葉山まちづくり展で町民の方々に見ていただきませんか。皆様方の積極的な参加をお待ちしています。お問い合わせは、葉山まちづくり協会までお願いします。（電話046・876・0421）

**葉山まちづくり展に向けて**  
第18回葉山まちづくり展実行委員長 守屋重雄

第18回葉山まちづくり展は、葉山町福祉文化会館にて、平成30年5月25日〜27日まで開催予定です。テーマは「楽しい」をキーワードに「知って楽しむ葉山ライフ」に決定しました。『ライフ』は、生命・生活・一生という三重の意味を表現しています。

自然・文化・生活とさまざまな分野の活動をしているまちづくり協会登録団体を中心にその他の団体も一体となり、あらゆる世代に楽しんで参加してほしいと思っています。この葉山まちづくり展に多くの町民の皆様や他市町の方々に来ていただき、1年間の活動の成果について語り合い、体験し、共に参加していただける催しにしたいと思っています。

葉山まちづくり展の原点は、平成11年 くれ竹の郷の葉山構想に端を発しています。もつといい町にしようと、葉山の生活を継承するくれ竹の郷構想が、協働のしくみと相まってまちづくり協会の活動の中心となり今につながっています。

葉山を知って、住みたい、楽しみたい、そんな思いが持てる『まち』にしたいと思っています。葉山まちづくり展がその一助となるようまちづくり協会の素晴らしいスタッフと共に盛り上げていきたいです。

最後になりますが、今後とも、葉山町山梨町長はじめ職員の皆様、葉山町福祉文化会館の職員の方々、そして関係各位にご指導ご鞭撻をよろしく願っています。



第17回まちづくり展の様子

## 登録団体ニュース・イベント

### 第30回神奈川地域社会事業賞受賞

神奈川地域社会事業賞は、1988年に始まった様々な分野で活躍する市民団体を表彰する神奈川新聞社主催の賞。「葉山メダカの会」は、保護、繁殖活動に加え、小中学校への『出前授業』や『体験学習』などの活動が高く評価されました。

### 葉山メダカの会

### みんなで歌おう♪ アミスタ会

懐かしい名曲や唱歌などを楽しく歌います。ワンポイントレッスンも。初心者大歓迎！

日時：3月11日（日）14時から

場所：葉山町福祉文化会館 大会講室

費用：500円

申込み・問合せ：046-875-0029（高梨）

### 60才からの音楽教室

### 早春の島山、按針塚ハイキング

日時：3月3日（土）9時35分〜14時

場所：木古庭バス停集合・解散 十三峠、按針塚などを巡る

費用：300円（資料・保険代）

対象：小5以上の健康な方

持ち物：弁当・飲み物・登山靴

申込み・問合せ：046-875-8440（板垣）

締切：2月28日（水）

### 葉山山楽会

## 葉山のお正月情報



新しい年も皆様が健やかに過ごせる1年でありますように。

森戸神社	12月31日	15時
新善光寺（上山口）	12月31日	23時半〜1時
光徳寺（堀内）	12月31日	23時45分
逗子		
妙光寺（久木）	12月31日	23時40分
延命寺（逗子）	12月31日	23時45分〜1時
海宝院（沼間）	12月31日	23時45分
神武寺（沼間）	1月1日	0時

### 御奉射祭

武勇に秀でた祭神にちなんでお祭り。4月小学校に入学する男児が弓を射ます。

### どんど焼き

新年の門松、お飾りや去年のお札などを焼いて1年の無病息災を祈る習わし。左義長、さいと焼きなども。

三ヶ浦海岸	1月8日（月祝）	9時
諏訪町下海岸	1月13日（土）	9時
一色海岸	1月13日（土）	9時
鐘摺小浜海岸	1月14日（日）	10時〜11時半頃
長者ヶ崎海岸	1月8日（月祝）	10時〜12時
御霊神社	1月8日（月祝）	10時
森戸神社	1月14日（日）	8時
眞名瀬海岸	1月14日（日）	6時45分頃〜11時
本圓寺前古庭公園	1月14日（日）	13時

協会ニュース  
館ギャラリー「竹」の展示でもご協力いただいた矢部信二さんから新しい「協会の顔」をいただきました。



見にいらして ください

# まちの記憶

～失われてゆく邸宅を  
訪ねて～

## 別荘地としての「葉山」

気候が温暖で風光明媚な葉山が別荘地として注目されるようになったのは、明治20年代のこと。その後、横須賀線の開通をきっかけにさらに別荘が建ち始め、明治27年に「葉山御用邸」が造営されたことなどを受けて、葉山の別荘地としてのブランドが確立した。

明治では元勳や公家、昭和になると華族や政府高官、実業家たちが、有名な建築家によるデザインや資材などこだわりの別荘を建てた。全盛期には約500棟の別荘がまちの風景としてその風格ある佇まいをあらわしていた。

しかし、近年は所有者の高齢化や建物の老朽化によって取り壊しや改修を余儀なくされ、減少の一途をたどっている。

## 白仁邸（旧小暮邸）について

白仁邸（旧小暮邸）も葉山に別荘が建ち始めた頃の昭和11年に建てられた。

現在お住まいの方のお父様が毎年夏になると森戸にある「かぎや旅館（現・海狼）」に避暑に来ていたのだが、葉山が

気に入る、別荘を建てた。その別荘は、お父様が大学生の時に自分で設計したそうだ。「黄色い壁に赤い屋根の家」が建てられたと、現在もその面影を残している。内装も

天井、壁、ガラス、照明に至るまで随所に当時のこだわりの感じるところとなっている。

その後浅草・雷門にあった自宅が空襲で焼失したことを機に葉山に移り住んだ。当時は、周辺も別荘が立ち並んでいて、皆さん顔見知りだったそうだ。

夏には、たくさんのパラソルが海岸にたち、にぎやかな海を楽しんだ。

また、最近流行りのランチ会というお店に出かけるのが一般的だが、当時は招いてくださったお友達のお宅の応接



昭和11年新築当時の白仁邸（旧小暮邸）

室が会場となっていた。そこで楽しい時間を過ごした。現在、ま



当時のままの応接室

思いをされているそうだが、お話をうかがうだけで当時の情景が浮かび、想像をかきたてられる。

応接室で紅茶をいただきながら、しばし古き良き時代にタイムスリップしたような感覚におそわれた。

記憶のなかの葉山は全く色あせない。趣のある景色に憧れを感じながら、年々消えゆくまちの風景と歴史を残せないものかと深く考えええられた。



『葉山のこみち』

## NPO 法人 葉山環境文化デザイン集団

「葉山に眠っている可能性を見つけだし、再び価値を与えることで新しい葉山の魅力を創造する。」これを活動の目標として、地域との交流をとおし、「葉山のまちのあり方」について考え提案する活動をしている。

葉山まちづくり協会の登録団体「NPO 法人葉山環境文化デザイン集団」。

発足は2001年。葉山には地域ごとの豊かな自然に根ざした文化と、明治以来の別荘地の佇まいが息づいている。そんな葉山に住む人々の知恵や知識を景観と一緒に、まちの財産として次世代に伝えていく「まちづくり」を目指している。

おもな活動内容としては「歴史的建物調査」と「葉山らし



別荘ツアーの様子

<http://www.hayama-design.org/>

い景観調査」。葉山の戦前の建物調査を行い、現在も継続して追跡調査中。また、現存する別荘の実測と写真と聞き取りによる記録保存活動に取り組み、「葉山の別荘」を出版。また、団体が考える葉山らしい景観を探して葉山の道をくまなく歩いて調べ、分布地図と写真とを冊子にまとめた。そこで見つけた葉山の良さを多くの人に知ってもらおうと『葉山のこみち』を出版した。そして、葉山の文化遺産を次世代に繋げるためのネットワークづくりをすすめるためにワークショップやさまざまな団体との共催によるイベントの企画・運営をしている。「洋館めぐりツアー」、「古民家で、打ちたて蕎麦と旬の味覚を愛でる会」など趣向を凝らしたイベントには毎回参加者が多く歴史や建物の説明に熱心に耳を傾けている。現在は、町の一等地で開発がすすむエリアの在り方について地域の人とともに葉山らしいランドデザインを構築すると共に、15年ぶりになる「まちづくり条例」改訂に向けて勉強会を開催中。積極的に活動を続ける団体情報はホームページでご確認ください。

## SHOPPING PLAZA HAYAMA STATION 2年目の挑戦

人が行き交う  
“町の交流拠点”  
を目指して



去る6月「SHOPPING PLAZA HAYAMA STATION（以下葉山ステーション）」と表記し、1周年を迎えた。土日を中心に盛況ぶりは増すばかり。たった1年で

堂々葉山の観光拠点に仲間入りである。葉山町と葉山町商工会の協同プロジェクトが運営するこの商業施設、誕生の発端は、商工会会員の夢だったという。

商工会が中心となるイベントは週に1度の鑑覧漁港朝市、年1回の「ビッグハママーケット」とあるが、「毎日開けるマーケットがほしい！」という声が長い間あがっていたそうなのだ。それを夢で終わらせず、着々と準備を重ね、形にしたのが葉山ステーション。商工会会長・



柳新一郎さんは当時を振り返り「町の協力も大きかった。でも成功の最大の要因は、商工会のみんながあきらめなかったこと」と、感慨深

げに語る。

横浜横須賀道路につながる逗葉新道の入口。観光客を迎える「葉山の玄関」としての機能を果たす同施設だが、運営側が最も腐心したのは町民の日常的なマーケットとして根づくことだったという。

「そのために大事なものは、とにかく皆様に満足してもらえぬ品物を揃えることだと考えました」と柳さん。

「たとえば野菜。最初から葉山野菜を中心に置きたかったのですが、三浦野菜に頼らざるを得ない時期もあった。野菜を商品として売ることが三浦の農家のほつが実績があるせいか、味はともかく見た目に差があつたんです。それが今では葉山産も見劣りしない。商工会もアドバイザーをし、農家も努力を重ねてくれた結果、理想的な品揃えに近づきました」

商工会と生産者、協力店、そして、町施設に関わる人々の日々の努力のこいあつて、最初は観光客用の店だろうと噂していた町民たち、とくに長柄の住民から「ここができて本当によかった、便利になった」という声が聞かれるようになった。日々の買い物、休憩に、地元住民が喜んで利用していることは平日も客足が絶えないことが証明している。

さてすっかり地元を受け入れられた今後は、「町の交流拠点」文化を発信する場所としての役割を強めていきたいとのこと。具体的には会議室やイートインコーナーを利用して料理教室など町民が

## 南郷上ノ山公園

ステーション  
帰りに  
寄り道！



交流できる場を設けたり、これから飲食店を開きたいという希望を持っている人に試験的に商品を置くスペースを貸すことでチャンスを与えたり……などいろいろなアイデアが出ています。実際、選挙の期日前投票場となったり、神奈川県教育委員会主催の「文化財保護ポスター展」が開催されたりと、次なる目的に向けた動きがこのところ活発化している。

名前の「ステーション」には、人が集うところという意味も込められている。町民にとっても観光客にとっても、さらに魅力的になる可能性を秘めた場所。葉山ステーションの2年目の挑戦に、大いに期待したい。

山に囲まれ緑が豊か。周囲の尾根には「果実と野鳥の森」遊歩道があり、公園を見下ろすこともできる。春は緑の中にピンクや白の桜、秋は湘南随一といわれる黄色の銀杏並木が美しく、神宮外苑まで足をのびさなくても十分。黄色い絨毯をサクサク踏めば違う世界に迷い込む。テニスコート・多目的グラウンド・遊具はもろろドッグヤードも整備。近郊からも多くの人がやってくる。朝比奈からはドッグヤードを見学に来た犬連れの人が、さっそく仲間にご挨拶。犬同士鼻をこすり合わせ、大成の様子である。けやきの木の下で落ち葉を集めている人は逗子から。子供会の「焼き芋大会」に使うという。「枝ばかりでなく落ち葉を燃やし、灰がたくさんあるとここで焼くとおいしい焼き芋ができるのです。銀杏の葉は平たく、硬く、少し油が出る。その点、けやきの落ち葉は丸みを帯びていて、火の通り・持ちもよく、火力がちょうどでお芋がほっくり焼き上がる。毎年この時期は落ち葉拾いに来ています」黄色く色づきはじめて銀杏並木のほうへ行くとかわいい2頭の犬を連れてた。「茅ヶ崎から海岸線を走ってたびたび犬の散歩に来ます。これから葉山ステーションに寄って何か買って帰ります」目的は皆違ふけれど、広々とした場所に身を置けば、気持ちもゆったり。明日への元気が湧いてくる。

注・南郷上ノ山公園内で焚き火はできません